

News Letter

Joining & Welding Research Institute

- ◆ 接合科学研究所 令和5年度外務大臣賞受賞◆ お知らせ
- ◆ 新任教員紹介 ◆ 受賞・人事
- ◆ 行事報告、ニュース ◆ 編集後記

Contents

接合科学研究所 令和 5 年度外務大臣表彰を受賞

接合科学研究所のベトナムにおける高度溶接技術者育成や溶接・接合に係る研究力の向上への貢献が評価され、8月22日に外務省飯倉別館において令和5年度外務大臣表彰を受賞しました。この賞は毎年、海外での活動に貢献した個人や団体に贈られるものです。当日の表彰式には田中 学前所長（現在、理事・副学長）が出席し、林 芳正外務大臣から直接表彰状が授与されました。また、式典終了後には、同館において祝賀セレブレーションが行われ、林外務大臣にこれまでのベトナムでの活動についてお話をさせていただく機会をいただきました。

接合科学研究所では、来年度から JICA 草の根技術協力事業の支援による「ベトナム社会主義共和国ハノイ工科大学における溶接管理技術者育成能力向上事業」が開始されます。ベトナムでは、製造業・社会インフラ業を下支えする裾野産業および中小製造業での溶接管理技術者の不足が深刻であり、ベトナムの発展には溶接技術者育成に係る基盤構築が急務です。本事業では、接合科学研究所の教員を中心に、技術者、企業等を含む 13 名の専門家をベトナムのハノイ工科大学機械工学部および今年1月に同大学に設立された接合科学研究所 HUST-OU に派遣し、直接交流により技術移転を行い、基盤構築を進めていきます。今回の受賞を新たな活力にし、これからもベトナムの製造業の発展を支え、わが国の友好親善に寄与する所存です。

（受賞者功績概要）

接合科学研究所は、ベトナムの発展を支える高度溶接人材の溶接・接合に係る研究力向上、溶接技術管理者不足の改善を目指し、2013 年にハノイ工科大学機械工学部と連携を開始、留学生や若手研究者を受入れ、人材育成に貢献してきました。2016 年研究・交流活動を推進し、2018 年にはベトナム溶接研究会を設立。ハノイ工科大学と日本企業の連携に向けて定期的にセミナーを開催する等関係者間のネットワーク構築・強化に尽力しました。また同年には民間企業と連携して共同研究を開始、ベトナムの溶接技術の向上に寄与。2023 年には、同地域初の溶接・接合研究に特化した「接合科学研究所 HUST-OU」をハノイ工科大学と共同で設立しました。



報 告

世界最小電圧で光る青色有機 EL の開発に成功

伊澤 誠一郎

研究所間連携戦略室 準教授

発光ダイオード (LED) のうち、青色発光は三原色（赤・緑・青）の中で最も高いエネルギーが必要であり、白色光源の元となるなど産業ニーズも高いため、発光素子で一番重要な技術です。無機材料の青色 LED は 2014 年に赤崎勇博士、天野浩博士、中村修二博士の日本人 3 名がノーベル物理学賞を受賞しました。一方で、有機の LED、つまり有機 EL は高コントラストで色彩性が豊かであること、面発光光源で薄膜化やフレキシブル化が容易であるなど、無機 LED とは異なる特徴があります。そのため、有機 EL は大画面テレビやスマートフォンディスプレイなどで既に実用化されています。有機 EL は既に产业化に成功していますが、一方で青色の有機 EL 発光素子に関してはいまだに駆動電圧が高いことや、素子の長期安定性が低いなどといった問題を抱えています。例えば、ディスプレイ程度の発光輝度である 100 cd/m^2 で青色を発光させるためには 4 V 程度もの大きな電圧が必要であり、有機 EL の消費電力が大きくなる最大の要因となっています。

我々は 2 種類の有機分子の界面を使った独自の発光原理を使って、1.5 V の乾電池 1 本という超低電圧で光る青色有機 EL を開発しました。その発光メカニズムはまず電子と正孔（ホール）がデバイスに注入された後で、電子ドナー／アクセプター分子の層の界面で再結合を起こし、電荷移動 (CT) 状態という励起状態を形成します。次に、CT 状態からエネルギー移動が起こり、ドナー層中で三重項励起状態 (T_1) を生成します。その後、ドナー層中で、2 つの三重項励起状態から、三重項—三重項消滅により高エネルギーの一重項励起状態 (S_1) を作り出すアップコンバージョン過程を経て、青色発光を実現します（図 1a）。この発光メカニズムを実現するドナー／アクセプター分子の最適な組み合わせを探索して、有機 EL デバイスを作製したところ、462 nm に最大発光強度をもつ青色発光（光エネルギーで 2.68 eV の青色の発光）が観測されました。印加電圧に対する発光輝度の立ち上がりを測定したところ、青色発光が 1.26 V という超低電圧から認められ、スマートフォンディスプレイ程度の発光輝度である 100 cd/m^2 には 1.97 V で到達しました（図 1b）。このように 1.26 V という超低電圧で青色の発光が認められたことから、図 1c のように乾電池 1 本 (1.5 V) をつなげるだけで青色光を得ることに成功しました。

今回のような超低電圧での青色発光は無機材料の青色 LED でも不可能であるため、有機、無機材料、双方を含めても世界最小電圧で発光する青色 LED の開発に成功したと言えます。本研究では、有機 EL に関してこれまで問題とされてきた青色発光にかかる電圧を大幅に低減することができました。今後さらに研究を進展させれば、大画面テレビやスマートフォンディスプレイなどの機器の消費電力を大幅に低減し、省エネルギー化に貢献できると考えています。（2023 年 9 月 20 日付の「Nature Communications」に掲載）

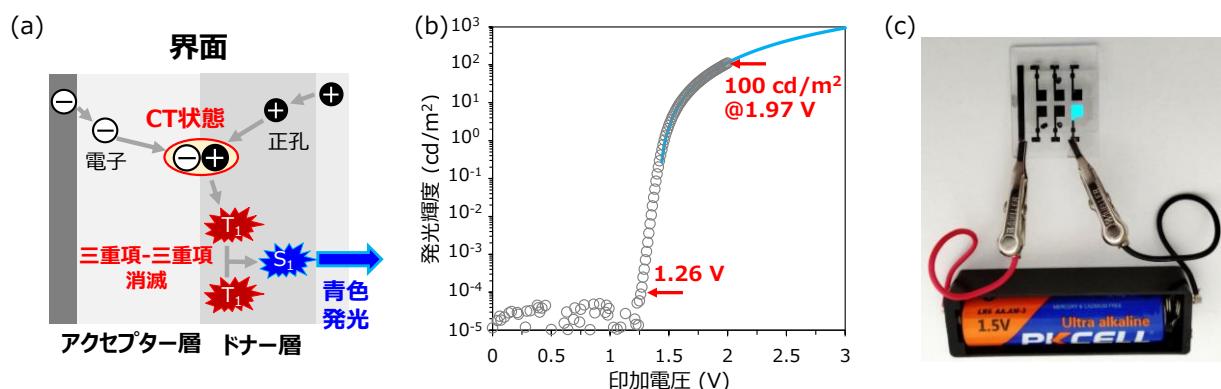


図 1(a) 界面を使った独自の発光原理. (b) 開発した青色有機 EL の発光輝度-電圧特性. (c) 乾電池 (1.5 V) 1 本で青に光る写真.

新任准教授紹介

研究所間連携戦略室

伊澤 誠一郎

研究所間連携戦略室 准教授

6大学連携、国際・产学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト-出島（DEJI2MA）プロジェクトの連携教員として、2023年4月に着任いたしました伊澤誠一郎と申します。接合科学研究所では、出島プロジェクトの運営に従事いたします。私は東京工業大学・科学技術創成研究院・フロンティア材料研究所とのクロスアポイントメントとなっており、普段は東京工業大学すずかけ台キャンパス内にあります研究所間連携戦略室にて勤務をしております。専門分野は有機半導体材料、界面物性、有機光デバイスで、シリコン太陽電池に代わる次世代のエネルギー変換デバイスとして期待される有機太陽電池や、スマートフォンディスプレイや大型テレビなどで既に実用化されている有機EL、長波長・低エネルギーの光を短波長・高エネルギーの光に変換することで様々な応用先が期待されるフォトンアップコンバージョンなどのテーマについて研究を行っております。東京工業大学では、フロンティア材料研究所の真島豊教授とともに真島・伊澤研究室を運営し研究室に配属された学生の指導を行っております。また東京工業大学の教員としては、物質理工学院・材料系の大学院・学部の授業を担当しております。現在、私が研究室で指導している学生は3名ですが、来年度以降、徐々に大学院生が増えていく予定となっております。大阪大学の教員として迎え入れて頂いたご縁を大切にして、出島プロジェクトの成功と、接合科学研究所の発展のために、微力ながら貢献できればと考えております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



新任助教紹介

研究所間連携戦略室

目代 貴之

研究所間連携戦略室 助教

この度、接合科学研究所、研究所間連携戦略室 国際・产学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクトの助教に着任いたしました。目代貴之と申します。



本プロジェクトは、6大学連携プロジェクトとして大阪大学接合科学研究所、東北大学金属材料研究所、東京工業大学フロンティア材料研究所、名古屋大学未来材料・システム研究所、東京医科歯科大学生体材料工学研究所、早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構の6大学附置研究所が連携して取り組む事業であります。研究活動分野として、環境・エネルギー材料分野、バイオ・医療機器材料分野材料、情報通信材料分野を掲げ、社会的要請から大学での専門的研究を融合することで課題解決を目指します。ゆえに、本プロジェクトでは、产学連携活動の強化として民間企業との共同研究の促進が必要となり、その役割を連携戦略室は担っております。社会的要請から大学研究を融合し課題解決を進める「インヴァースイノベーション」というこれまでにないアプローチでプロジェクトを進めることは容易ではありませんが、6大学と共に協力し、挑戦していくことで新たに研究の幅を広げ社会に貢献していく所存であります。

私自身の研究に関しては、生体の構成分子間ににおける電子授受に伴う活性酸素・フリーラジカル産生を機軸とした生命現象の機構、並びにフリーラジカル制御技術研究を得意としています。研究対象の一つとして、生体材料があり、細胞や細菌を扱った生体適合性・生体機能性評価などにも取り組んでいます。

至らぬ点もあると存じますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

行事報告

第 20 回 産学連携シンポジウム

麻寧緒

接合評価研究部門 接合構造化解析学分野 教授

2023 年 5 月 23 日、大阪大学接合科学研究所主催、大阪商工会議所と一般社団法人生産技術振興協会共催の第 20 回産学連携シンポジウムを、大阪大学中之島センターにて開催し、約 50 名の方々がご参加下さいました。本シンポジウムの冒頭で、藤井英俊所長が開会挨拶し、接合研の共同利用・共同研究の拠点としての役割を述べると共に、共同研究受賞式を行いました。セッション 1（共同利用・共同研究賞 受賞講演）では、柳樂知也主幹研究員（物質・材料研究機構）より、「放射光 X 線を利用した溶接凝固現象および凝固割れ形成挙動の解明」についてご講演頂きました。続いて、セッション 2（産学連携活動）で、椋田宗明様（三菱電機）より、「産学連携による摩擦攪拌接合の革新と適用拡大の取り組み」に関してご講演頂きました。セッション 3（接合科学研究所シーズ）では、古免久弥講師、三浦拓也助教、三上欣希教授、桐原聰秀教授が、4 研究分野のシーズである「実験計測と数値計算から紐解くアーク溶接現象」、「高品質異材接合を可能とする各種固相接合法」、「鉄鋼材料および溶接部の水素割れ評価手法の高度化」、「光造形法アディティブ・マニュファクチャリングによる実用部材の創製プロセス」をそれぞれ紹介しました。最後に本シンポジウム実行委員長の麻寧緒教授が、講演者および参加者の方々に感謝の言葉を述べ、来年開催予定の第 21 回産学連携シンポジウムへのご参加を期待して、閉会挨拶しました。

JWRI-CSIRO AM Workshop

桐原 聰秀

多次元造形研究センター 積層造形学分野 教授

5 月 29 日に接合科学研究所内において、オーストラリア連邦科学産業研究機構（CSIRO）と二国間ワークショップを開催しました。近年の国際的に関心が高まるアディティブ・マニュファクチャリング（AM）をテーマとし、CSIRO からの 7 名と JWRI からの 6 名が講演しました。対面とオンラインのハイブリッド方式で開催たところ、会場には学内の聴講者が 10 名程度でしたが、オンライン上では民間企業などから約 30 名の方々が参加され、当該分野に関する関心の高さが伺えました。話題となった AM 科学技術としては、TIG 溶接技術を応用した金属造形技術に関して、精密制御プロセスをはじめ溶融凝固シミュレーションなどが披露されました。また、所内の多次元造形研究センターからはセラミック微粒子の合成をはじめ、特殊機能を発揮する無機材料の造形プロセスなどが、複数紹介されました。当該交流事業はオーストラリア政府プロジェクトの一環であり、次回は JWRI メンバーが CSIRO を訪問予定です。当該科学技術分野の発展に対して、より一層貢献したい考えです。

ベトナム溶接研究会 第 9 回研究会

勝又 美穂子

グローバル D&I 推進室 准教授

2023 年 6 月 26 日（月）、ベトナム・ハノイ市ハノイ工科大学及び近郊のタンロン III 工業団地（ビンフック省）にて第 9 回ベトナム溶接研究会を開催しました。第一部にハノイ工科大学にて学術研究講演を、第二部に 2 社の日系企業工場見学を行いました。第一部、第二部共に 30 名程のご参加がありました。

第一部では、当研究所藤井 英俊所長より、「いくつかの新規固相接合法ー世界の最先端ー」というタイトルで最新の技術研究について講演がありました。午後にはビンフック省タンロン工業団地 III にて、始めに Yamamoto Metal Precision Vietnam（山本金属）を訪問しました。同社は培った金属加工の技術を応用し、様々な機器の開発、製品製造、サービスの提供を行っています。次に同じ工業団地内にある Daiwa Plastics Thang Long（大和合成）の工場を訪問しました。同社はプラスチック製品を製造しており、小型から大型まで多数の成型機が揃う工場を見学しました。お忙しい中、両社には多数のスタッフのご協力の下、丁寧な会社説明、及び工場案内を実施いただきましたことに改めて御礼申し上げます。

行事報告

2023 大阪大学共創 DAY@EXPOCITY

池田 倫正

接合評価研究部門 接合組織評価学分野 教授

2023年7月8日に開催された大阪大学共創DAY@EXPOCITY 2023『未来社会を創造中!』において、「つなぐ技術で未来を創る」と題した接合体験ブースを出展しました。さまざまな物が溶接・接合技術によって創られることをポスター展示、はんだ付け体験を通じて知ってもらうことを目的にした出展で、はんだ付け体験ではステンドグラスを製作して頂きました。当日は約120名もの来訪があり、「貴重なもののづくり体験ができた、楽しかった、研究分野を知ることができた」などの声を頂きました。接合科学を身近に感じてもらえる機会を提供できたと考えています。



接合科学研究所 第16回、17回 女性の会 (JWRI 女会)

梅田 純子

グローバルD & I 推進室 教授

7月10日第16回JWRI女会を教職員24名と学生4名が参加して開催しました。気負わずに全員が発言できるよう、カジュアルな自己紹介を行い、立場を問わず気兼ねなく集うことができる場となるように親睦を深めました。10月15日に開催した第17回JWRI女会は、教職員31名と学生5名が参加しました。プチセミナー「じぶんの特性を再認識」を行い、異なる考え方を理解して多面的に相手を享受することの大切さを認識する機会となりました。また、設立7周年を迎えることができ、今後も活動を通じて、研究所の活性化に繋げたいと思います。

外国人研究者・留学生を対象としたオリエンテーション
(Orientation for Int'l researchers & students)

梅田 純子

グローバルD & I 推進室 教授

接合科学研究所に在籍する外国人研究者・留学生に向けた研究生活のサポートとネットワーク構築を目指して、10月18日にオリエンテーションを初開催しました。20名の外国人教員や研究員、留学生が参加しました。参加者の国籍は、中国・インド・タイ・ベトナム・韓国・台湾・イタリア・オーストラリアと、多様な背景を持つ人が集まる本研究所です。グローバルD & I 推進室のメンバー紹介と事務部国際チーム紹介、本研究所におけるサポート体制の説明、技術部紹介と技術部管理装置紹介や予約システムの説明、JWRI女会の紹介が行われました。続いて、本学日本語日本文化教育センターと本研究所が連携して実施している日本語学習プログラムの説明を行い、また、本年度前期受講者3名に修了書が渡されました。さらに、大阪大学で生活する上で重要なKOAN利用方法や会議室予約方法、本研究所でのごみの捨て方や吹田キャンパス情報が共有されました。今後の開催に向けてアンケートを行い、学内の施設利用方法やイベント案内、生活に関する情報を得たいなどの希望が寄せられました。



行事報告

接合科学研究所同窓会 2023 年度サマーフェスタ

古免 久弥

接合プロセス研究部門 エネルギー制御学分野 講師

8月26日（土）に、2023年度1回目の接合科学研究所同窓会の近況報告会（サマーフェスタ）が開催されました。今回はオンラインでの開催となり、37名の方にご参加いただきました。まずは上山智之会長からのご挨拶の後、藤井英俊所長から接合科学研究所の活動報告がなされました。その後は学生からの研究活動の紹介として、星野佑介氏と新田隼也氏の2名から発表がなされました。

また接合科学研究所の都甲将助教から自身が取り組む先端研究の紹介がなされ、続いて国内外からの会員近況報告として加藤徹夫氏（1988年度 博士前期課程修了）と青木篤人氏（2020年度 博士後期課程修了）に、公私に亘るこれまでの取組みや近況をご報告いただきました。いずれの報告や紹介においても、和やかな雰囲気の中で質疑応答がなされ、会員同士の親睦が深められました。

カップリングインターシップ (CIS)活動報告 (ドイツ/ベルギー)

勝又 美穂子

グローバル D&I 推進室 准教授

2023年8月12日～8月23日の約10日間で、ドイツ・デュッセルドルフから車で30分のOTCダイヘンヨーロッパ(OTCE)にて CISを行いました。参加学生は、大阪大学の外国語学部2名、工学研究科2名、KUルーベン大学（ベルギー）工学部1名、人文学部3名、の計8名でした。

8月15日からの4日間はOTCEにて、企業、各部署について学ぶと共に、多くの社員の皆様とのインタビューを通して学習しました。溶接口ボットの操作やマニュアル溶接の体験も行い、溶接技術についても知見を深めました。参加学生は「OTCEにおける多様な視点での働き方と次世代を担う人材の育成」という課題に取り組みました。8月21日にKUルーベン大学(KUL)で行った最終報告会には、OTCE社長Mr.Kleinendonk、副社長西野様、吉野様、そしてKUL工学部副部長Prof. Eneman、工学部Prof. Sharma、同国際担当Ms. Lauwereys、人文学部教授及び日本・韓国地域協議会KUL代表Prof. Vanoverbeke、接合研所長藤井教授が参加しました。

カップリングインターシップ (CIS)活動報告 (ベトナム)

勝又 美穂子

グローバル D&I 推進室 准教授

2023年9月24日～10月3日の約10日間、ベトナムにおいて CISを実施しました。ベトナムの首都ハノイ市から車で約1.5時間東の港湾都市ハイフォン市の工業団地に位置するIHIインフラストラクチャーアジア（IIA）にて企業実習を受け入れて頂きました。参加学生は、本学外国語学部2名、工学研究科2名、ハノイ工科大学工学部2名、経済学部2名、の計8名でした。

9月26日からの4日間はIIAにて、企業、各部署の取り組みなどを学ぶと共に、部署や役職の異なる多くの皆様とのインタビューを通して幅広く学習しました。今回は「IIAにおける労働意欲の課題と対策（役職による優先順位を念頭に）」というテーマを頂戴し取り組みました。工場では溶接実習やガス切断の実習、そして現地ベトナム企業（顧客）の訪問を行う等、IIAの製造活動を多角的な側面から理解することができました。10月2日には、ハノイ工科大学にて最終報告会を開催し、IIA梶間社長、山中工場長、ハノイ工科大学Hanh溶接グループ長、Cuong産業経済学科長、接合研近藤教授、その他オンラインにて当研究所より複数名の参加がありました。

行事報告

同濟大学訪問団と接合研の国際交流

麻 寧緒

接合評価研究部門 接合構造化解析学分野 教授

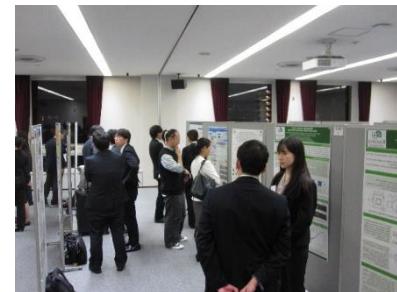
2023年8月30日に中国・同濟大学材料科学とエンジニアリング学院訪問団19名（引率教職員2名と学生17名）が来訪し、本学接合科学研究所と国際交流を行いました。接合科学研究所の藤井所長、麻教授、Geng 特任講師、Wang 助教、山下助教と三浦助教、グローバルイニシアティブ機構東アジア拠点の小溝拠点長、張特任助教が交流会に参加しました。当日は藤井所長から、接合研の歴史や現在の研究および国際交流の実績を紹介しました。また、張特任助教から、大阪大学の概要と留学プログラムについて説明しました。研究室を見学しながら、麻教授は、接合研コモンスペースに設置しているパネルを利用して各研究分野を簡単に説明し、Geng 特任講師と Wang 助教は、麻研の数値解析技術と接合構造安全性の評価技術を紹介しました。見学中、山下助教と三浦助教は、鋼材の固相 FSW プロセスをデモンストレーションしまして、学生からの質問を丁寧に回答しました。同濟大学は本学の協定校で、本学と長年の交流実績があります。また、本学の東アジア拠点が同大学に設置されています。

The 3rd International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture(DEJI²MA-3)

阿部 浩也

研究所間連携戦略室 教授

国際・産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト(DEJI²MA プロジェクト)の第3回国際会議(DEJI²MA-3)が、2023年10月20日(金)に早稲田大学国際会議場(井深大記念ホール)において開催されました。国内外の研究者から12件の招待講演、および72件のポスター発表(接合科学研究所からは12件)がありました。活発な議論はその後の懇親会まで引き続き行われ、インヴァースイノベーション材料創出のための大変有益な機会となりました。参加者は112名で、国際会議 DEJI²MA-3 は成功裏に終了しました。



令和5年度 大阪大学接合科学研究所 共同研究成果発表会

佐藤 雄二

接合プロセス研究部門 レーザプロセス学分野 准教授

当研究所は接合科学共同利用・共同研究拠点として、共同研究員により得られた研究成果を広く一般に公開するために、共同研究成果発表会を毎年開催しています。本年度は、2023年10月24日に荒田記念館において行われました。接合プロセス研究部門、先導的重點課題並びに多次元造形研究センターの共同研究課題の中から、計8件の研究発表がなされ、35名の方々にご参加頂きました。活発な質疑応答が行われ、異分野融合の可能性が広がる有意義な発表会となりました。



行事報告

第3回 同窓会総会

古免 久弥

接合プロセス研究部門 工エネルギー制御学分野 講師

10月28日(土)に接合科学研究所同窓会の第3回総会が開催されました。今回は接合科学研究所荒田記念館での現地開催と、オンラインのハイブリッド開催となり、21名(現地17名、オンライン7名)の会員にご参加いただきました。総会では上山智之会長のご挨拶の後、事務局より役員の紹介と今年度の活動報告、来年度の行事予定についてご報告いただきました。その後、藤井英俊所長からの本研究所の活動状況報告がなされました。質疑応答では活発な議論や交流がなされ、会員同士の親睦が深められました。



2023年度「接合科学賞」及び「接合科学奨励賞」

三上 欣希

接合評価研究部門 接合構造化設計学分野 教授

令和5年11月16日(木)に第2回「接合科学賞」および「接合科学奨励賞」の授賞式ならびに受賞記念講演を、荒田記念館(大阪大学 接合科学研究所)にて執り行いました。本賞は、接合科学分野において顕著な研究業績を収め、当該分野の発展に大いに貢献した研究者に贈られます。本年度は、以下の受賞者に各賞を授与しました。

接合科学賞

「数値溶接力学」の学術的基盤構築

上田 幸雄 博士

(大阪大学名誉教授)

Welding metallurgy and solidification

Dr. Stan A. David

(Corporate Fellow Emeritus, Oak Ridge National Laboratory, USA)



接合科学奨励賞

Interface bonding mechanism and fabrication of carbon/metal composites

Dr. Bian Chen

(Professor, Northwestern Polytechnical University, China)



受賞記念講演は、対面とビデオ、オンライン配信のハイブリッド形式で実施されました。各受賞者からは、受賞に係る研究トピックの概説から今後の展望、さらには当時の時代背景を踏まえた研究の苦労話に至るまで、非常に広範で学びの多い内容についてご講演いただきました。接合科学研究所は、これらの名誉ある受賞を心より祝福し、この式典が今後の接合科学分野の学術研究の発展の契機となることを期待しております。



お知らせ

2023年度共同研究員募集について

毎年、多くの方に共同研究員に応募して頂きありがとうございます。2023年度につきましても共同研究員の募集を行っております。

募集要項は、[接合科学共同利用・共同研究拠点のウェブサイト](#)に掲載しております。

各種賞受賞者等

受賞日	受賞者（所内）	賞等の名称	授与団体
2023年			
5月14日	吳 東昇 (Wu Dongsheng)	The excellent paper award of "14th National Conference on Laser Processing"	中国光学学会レーザー加工委員会
5月26日	藤井 英俊	第20回本多フロンティア賞	(公財) 本多記念会
5月31日	吉田 恵史 (院生)	論文発表奨励賞	レーザー学会
6月2日	芹澤 久	功労賞	(一社) 溶接学会 軽構造接合加工研究委員会
6月2日	相原 巧 (院生)	講演奨励賞	(一社) 溶接学会 軽構造接合加工研究委員会
6月20日	森本 健斗 (院生), 佐藤 雄二, 竹中 啓輔, 水谷 正海, 林 良彦, 阿部 信行, 塚本 雅裕	レーザ加工学会誌ベストオーラー賞	レーザ加工学会
6月29日	小澤 隆弘	物質・デバイス共同研究賞	大阪大学 産業科学研究所
7月16日	吳 東昇 (Wu Dongsheng)	IIW 2023 Henry Granjon Award	国際溶接学会 (IIW)
7月25日	麻 寧緒	The WSE Contribution Award	9th International Conference on Welding Science and Engineering
7月27日	Jeff Huang (院生)	2023 Metal Additive Manufacturing Outstanding Technical Paper Award	Metal Powder Industries Federation
7月27日	Wenjia Huang (院生)	Excellent Presentation Award to Young Researcher	9th International Conference on Welding Science and Engineering
7月27日	Paponpat Chaimano (院生)	Excellent Poster Award to Young Researcher	9th International Conference on Welding Science and Engineering
8月8日	田代 真一, 田中 学	溶接物理・技術奨励賞	(一社) 溶接学会 溶接法研究委員会

8月9日	古免 久弥, 田中 学	溶接物理・技術奨励賞	(一社) 溶接学会 溶接法研究委員会
9月7日	新田 隼也 (院生)	MES2022 研究奨励賞	第33回エレクトロニクスシンポジウム
9月20日	三浦 拓也	新進論文賞	(公社) 日本金属学会
9月21日	木内 夏実 (院生)	第186回秋季講演大会学生ポスターセッション 優秀賞	(一社) 日本鉄鋼協会
9月21日	虎本 陸希 (院生)	第186回秋季講演大会学生ポスターセッション 奨励賞	(一社) 日本鉄鋼協会
10月10日	小澤 隆弘	第21回 APT Distinguished Paper Award	粉体工学会
10月18日	山本 航生 (院生)	THIRD PLACE Poster Award	ICALEO2023

人事異動

(2023年5月～2023年10月)

【着任】

2023年5月1日	事務補佐員	藤本 紀子	採用
2023年5月1日	招へい研究員	NGOC QUANG TRINH	受入れ
2023年5月1日	招へい研究員	河原 充	受入れ
2023年7月1日	招へい教授	菅 哲男	受入れ
2023年7月1日	招へい准教授	XIAO XIAO	受入れ
2023年7月1日	招へい研究員	石田 和也	受入れ
2023年7月1日	招へい研究員	LI JINGJING	受入れ
2023年8月16日	事務補佐員	矢田 弥生	採用
2023年9月1日	事務補佐員	浅川 真由美	採用
2023年9月16日	事務補佐員	橋本 朋子	採用
2023年10月1日	特任事務職員	吉村 淳子	採用
2023年10月1日	特任事務職員	畠田 裕貴	採用
2023年10月1日	特任事務職員	青木 淳子	採用
2023年10月1日	技術補佐員	堀 英治	採用
2023年10月1日	技術補佐員	米澤 藍子	採用
2023年10月1日	事務補佐員	三好 絵美	採用
2023年10月1日	事務補佐員	杉村 有里	採用

【離任】

2023年6月30日	特任教授	菅 哲男	退職
2023年7月31日	招へい教員	AYMAN HAMADA ABDELHADY ELSAYED	終了
2023年8月31日	事務補佐員	谷村 宏美	退職
2023年8月31日	特任研究員	堀江 光雄	退職
2023年9月30日	特任事務職員	時水 清美	退職
2023年9月30日	特任研究員 S	PETERSON JACK EDWARD	退職
2023年9月30日	技術補佐員	伊東 万寿雄	退職
2023年9月30日	技術補佐員	村上 猛	退職
2023年9月30日	特任研究員	WANG JIANHAO	退職
2023年10月31日	招へい研究員	SINGH HANNA SUKHDEEP	終了

編集後記

今年5月から新型コロナの感染症法上の位置付けが「5類」へと移行したことなどもあり、アフターコロナの社会生活が定着し、学協会の講演大会などにおいても現地参加が再開されています。今回、当研究所主催の各種行事を紹介させて頂きましたが、当研究所においてもコロナ禍の中で中断あるいは制限されていた活動を本格的に再開しております。今後は、さらに溶接・接合分野における研究活動を活性化して参りますので、皆様のより一層のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。(池田 優正)

阪大接合研ニュースレター No. 53
2023年12月発行
発行: 大阪大学 接合科学研究所
編集: 接合科学研究所 広報企画委員会
〒567-0047 茨木市美穂ヶ丘 11-1
TEL: 06-6879-8677 FAX: 06-6879-8689
URL: <http://www.jwri.osaka-u.ac.jp/>

 @jwri1972